



## 新年のご挨拶

システナ健康保険組合  
理事長 国分 靖哲

新年あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、当健康保険組合の事業運営に対し、平素より多大なるご理解とご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

わが国では高齢化の進展により高齢者医療費が急増しており、健保組合はみなさまの保険料から支援金・納付金等として巨額の負担を余儀なくされています。

健康保険組合連合会が発表した「平成28年度健保組合決算見込の概要」によると、支援金・納付金等の総額は組合全体で3兆2819億円となり、それらが医療費（法定給付費）を上回った組合が4分の1を超えました。今後、団塊の世代が後期高齢者となる7年後まで健保組合の負担がさらに増加するのは確実です。

また、みなさまご承知のとおり、高齢社会の進行や医療技術の進歩、高額薬剤の保険適用等により、健保組合が負担する医療費は増大を続けています。全国の健保組合の平均では、この10年間で被保険者1人当たりの年間保険料負担は約10万円も増加しており、健保組合の支出の増加は、現

役世代の負担の増加となって現れています。

増え続ける医療費をだれがどのような形で負担していくか、国民全体でよりよいあり方を考え、世界に冠たるわが国の公的医療保険制度を守っていく必要があります。

なお、平成30年度は、メタボに着目した「特定健診・特定保健指導」の第3期がスタートするほか、データ分析に基づいた効率的な保健事業を目指す「データヘルス計画」が本格稼働する第2期が始まります。

当健保組合といたしましては、新たな年に新たな計画のもと、医療費適正化と効果的な健康づくり事業に取り組んでまいります。みなさまにおかれましても、ジェネリック医薬品の利用などで、医療費の適正化にご協力いただくとともに、健康管理・健康づくりのために人間ドック、歯科健診などの各種健診や特定保健指導をはじめとした当健保組合の事業を積極的にご利用いただき、ご家族ともに健やかな一年をお過ごしただければと存じます。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

